

日本地衣学会

No.18

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会員通信.....	61
	森を見て地球を考える - カナダ プリティッシュ・コロンビア大学研修記	
	その2 / 南 佳典.....	61
	ニュース.....	62
	来客予定 / 原田 浩.....	62

会員通信 From Members

森をみて地球を考える

- カナダ プリティッシュ・コロンビア大学研修記 - その2

中東地域の戦争と、原因が特定されていない病気 (SARS) が流行している中、カナダ・バンクーバーに向けて海外研修に出発した。戦争の影響はあまり感じられないのだが、カナダはアメリカ合衆国の隣国でありながら、本戦争を支持していない、SARS については死亡患者が出た国の一つであり、実際にバンクーバー行きの飛行機を待っている乗客たちの中に大きなマスクをした人が大勢いたのには驚かされた。

さて、そんな危惧もありながらの出発となったが、着いてしまえばいつもと変わらないバンクーバーが迎えてくれた。この時期はおおよそ雨がちな天候が続くものであるが、今回も鉛色の空としとしと降り続ける雨の中、ダウンタウンへとタクシーを飛ばした。実は、これから1年間滞在するための住居が決まっておらず、ダウンタウンにある滞在型ホテルの一室に居を構えながら、アパートメントを探す予定としていた。日本にいるときに UBC のアパートメントの予約申請をしてはいたのだが、なかなか空きが出る様子もなく、4月いっぱい待つつもりで市内のアパートメントを探しながらホテル住まいを決め込んだのである(実は、この文章を書い

ている今は、UBC のアパートメントが5月から借りられるようになっていたので、一安心)。

日本を発つ前にスポンサーの Bradfield 博士からセミナー開催の案内がメールで届いていた。セミナー開催日は8日(火曜日)ということだったが、到着日は4日(金曜日)だったので、ちょうどウィークエンドということもあり、セミナーまでの間にのんびりと観光気分を味わいながら、やや時差ほけを感じる体を徐々にカナダ太平洋時間に馴らしていった。

さて、セミナーの内容はというと、Bradfield 博士が指導教官を務めている大学院生の博士論文発表会であった。彼女の研究は、森林が伐採等で分断化された場合に、林床に生育する蘚苔類がどのような影響を受けるかを、いわゆる“edge effect”による多様性の変化を中心に検討することを主目的にしたものである。日本地衣学会のニュースレターの中で、蘚苔類について記述することは些か憚れるが、森林伐採の林床植物に対する影響という意味では、生態学的に見て共通性の高いものであるのでご了承いただきたい。

研究内容についてお話しする前に、プレゼンテーショ

ン法について若干のコメントをさせていただきたい。私は、本研修の出発前に“プレゼンテーション研修”なるものを受けてきた（本研修とは全く別の研修プログラム）。日本人は、一般的にプレゼンテーションが下手であるといわれている。それは大学で教鞭を執る人間の中にも多く、そんな教授達から高等教育を授かる学生はたまったものではない（と感じているはずである）。我々大学人は、授業料分のしっかりした教育をする義務があり、プレゼンテーション技術の向上もその一つと位置づけられる（Faculty Development）。その一環として、今回のプレゼンテーション研修を受けたのであるが、欧米諸国ではプレゼンテーションの技術などは、小学校（あるいは幼稚園？）レベルから一般の授業の中で取り

入れられていると聞く。そんな教育を受けてきた学生の一人なので、彼女の発表は聞いていて実に心地よい。一時間強の発表であったが、内容の素晴らしさとともに話し方の小気味よさ、パワーポイントを用いた図示のわかりやすさなど、日本の学生のみならず我々研究者にとっても大変参考になる発表であった。ところどころで問いかけを入れるところや、“cue”と呼ばれる聴衆を惹きつける技も駆使され、彼女の研究が手に取るように理解できたと言っても決して過言ではないだろう。

今回は誌面の都合でここまでにして、発表内容については次回にて。

（南 佳典：プリティッシュコロンビア大学客員研究員
[玉川大学農学部]）

ニュース News and Announcements

来客予定 Visitors

HUR Jae-Seoun (Mr., Dr., Assistant Professor):
韓国 Sunchon National University, Department of Environmental Education: 専門分野は環境科学、生物指標として地衣類にも注目。しかし韓国の地衣類について十分な情報・資料がないことから、自らフロラを調べ、記録する必要性を感じ、その勉強のため今年7月頃の約1ヶ月、千葉県立中央博物館に滞在予定。本会第2回大会にも参加を希望されている。

WANG Li-song (王 立松) (Mr.) 中国科学院昆明植物研究所：中国では数少ない地衣類の専門家。地元の雲南省をフィールドとしている。大型地衣類、特にハリ

ガネキノリ属 *Bryoria* など広義のホネキノリ属 *Alectoria* s.lat. などを専門とされている。本会第2回大会のシンポジウムの講演者として来日、1週間ほど滞在される予定。

王氏と原田は数年来の交流があり、明治薬科大学の成井さんらも含めて共同研究を進めてきた。また今年と来年は、原田が科研費により雲南省で淡水生アナイボゴケ科の調査をする予定で、王さんにはそのお手伝いをしていただく。

偶然にも、東アジアの2カ国から同時期に来日されることになったお二人は、私と同世代（彼らの方がちょっと若い）。第2回大会は、今後の東アジア地衣学の交流の起点となるか!? （原田浩：千葉県立中央博物館）

Lichenology 日本地衣学会ニュースレター とも、投稿先は：

原田 浩：〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2
千葉県立中央博物館。Fax 043-266-2481。
E-mail: h.hrd3@mc.pref.chiba.jp

（原田浩：編集委員長）

複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌13号46ページに。

Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication,

you or your organization must obtain permission. For details, see no. 13, p. 46 of this publication.

日本地衣学会ニュースレター 18号

発行日：2003年5月16日

編集：原田浩・岡本達哉・木下靖浩・棚橋孝雄
発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内